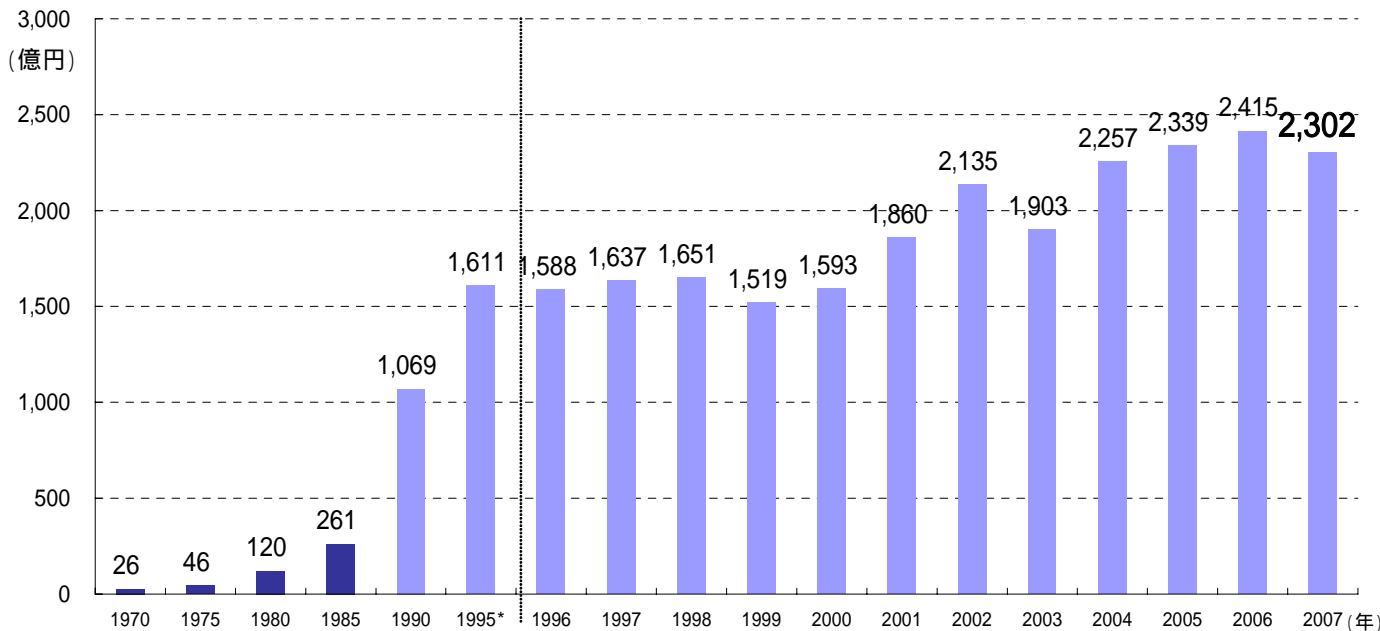


4年ぶりに市場減少 “アニメバブル”は一段落

アニメーション市場規模の推移 < 1990-2007年 >



*1995年以前は5年毎

注 2004年よりブロードバンド配信を含む

弊社が毎年実施している「アニメーション市場分析プロジェクト」の調査結果がまとまりましたので、その一部を発表いたします。

2007年(暦年)のアニメーション市場規模は2302億円で、前年比95.3%と減少に転じました。

劇映画は、邦画の「ポケモン」「ドラえもん」などの定番作品が堅調に興行収入を得ましたが、大きなヒットとなる作品が出ず前年比減となりました。

テレビでは、2006年に過去最高の規模となった地上波での新作放送本数が減少し、いわゆる「アニメバブル」が一段落しています。有料放送のアニメ専門チャンネルの視聴可能世帯数は引き続き増加していますが、有料放送市場全体の伸びが鈍化しているため、市場規模は前年比微増にとどまっています。

これまで拡大基調だったビデオソフト市場は、2006年をピークに減少に転じています。セル市場では、DVD販売全体に占めるアニメ作品の割合は増加していますが、金額としてみると前年比減となりました。レンタル市場はほぼ横ばいですが、レンタル店数が減少傾向にあり、今後レンタル市場全体の縮小が予想されます。

昨年まで急伸していたブロードバンド市場の伸びは鈍化しています。サービスが一定層のユーザーに定着し、急拡大期を過ぎたことが背景にあります。

今回の結果は、アニメ市場の基盤が2000億円前後で安定しつつある傾向を反映したものとなりました。今後は、ヒット作の登場に加え、有線系サービスのVODや携帯向け配信などの新たなウィンドウでのアニメ提供が、どれほど消費を喚起できるかが重要となると考えられます。

< 市場の範囲 >

・劇場用アニメ、アニメビデオソフト(セル/レンタル)、テレビアニメ、ブロードバンド配信

注)算出に際してはユーザー支出レベルで統一しています。ただしユーザーが直接支出に関与していない地上波およびBS放送で放映されたアニメに関しては、制作費を市場規模として採用しています。

< 本リリースに関するお問い合わせ >

株式会社メディア開発総研 担当:戸口、柳川 TEL03-5261-8927 FAX03-5261-8928 e-mail:info@mdri.co.jp

引用、転載される場合は、クレジット(メディア開発総研発表)を入れていただくか、上記担当へ連絡をお願いします。